◆水明インターネット句会◆　令和六年十一月

1	柿の実や烏鳴き合ひ喰ひ落とす	
2	神在月神楽殿で愚痴を聞く	
3	右左眇でじつと冬銀河	
4	水音の玲瓏として冬に入る	
5	臥待月酒を片手に君と吾と	
6	山茶花や扇子ふりふりお立ち台	
7	優勝旗かかげて叫ぶラグビー部	
8	米研ぎし手のひび割れや冬の朝	
9	年寄りの海老寝極まる夜寒かな	
10	行合の空昏くして初時雨	
11	抱き上げてミルクのにおい葡萄棚	
12	菊談議とどのつまりは菊自慢	
13	夕闇の背戸に早ばや虫の声	
14	流行歌まちに流れて冬に入る	
15	山茶花をつんつん次々登校子	
16	老友の頬りに訪ひ来る神無月	
17	露の世や瑠璃光院の床もみぢ	
18	カシミヤの凩防ぐ編み目かな	
19	小春日や井戸端ならぬドッグカフェ	
20	猫たちの空地つぶれて秋の風	

◆水明インターネット句会◆　令和六年十一月

21	石走る水に浮かべる散紅葉
22	爽籟や名も知らぬ実を揺らしをり
23	樽酒を振る舞う酒屋秋祭り
24	散紅葉姉を見送る無人駅
25	ねんねこや赤子指より眠りだす
26	竹林に消ゆる人力初時雨
27	道草の外湯巡りの湯冷めかな
28	竹の春黒木鳥居はただ静か
29	新札の渋沢吊し小熊手
30	懐かしき悲しきリズム冬の蝶
31	血涙や善知鳥の浦に母啼けり
32	寒柝の音を奪ふや救急車
33	軒並みに大根干すや鄙の里
34	鵙の鳴き草木の陰に染み渡り
35	里山の色を消しゆく秋時雨
36	紅葉且つ散る築山や宵フェスタ
37	あいまいな冬の入り口十一月
38	待ち侘びし彩る木々よ秋の暮
39	母の踏むミシンのリズム山装ふ
40	どっしりと姿ゆるがぬ秋の山

◆水明インターネット句会◆　令和六年十一月

41 初舞台古希の顔（かんばせ）天高し

42 凩や研ぎたる空の蛾眉の月

43 我が足は巨人の足よ螇蚸逃ゲ

44 ロッカーの陰で肉饅半分こ

45 冬晴の壁一面にヘップバーン

46 鬼の子や鎧を重ね籠る軒

47 枯蟷螂後期高齢皆盛ん

48 払暁に待ち人来たり霜柱

49 石蕗の花彩なき庭のほの灯り

50 七五三湯築城あとに子規笑ふ

51 少子化を柳葉魚食らひつ考える

52 すれ違う神の子人の子千歳飴

53 月冴えて爺はコーヒーポットから

54 黄落やベンチの二人黙通す

55 檸檬齧り「さあ！行くぞ」と後半戦

56 燗酒を慕いてくぐる暖簾かな

57 塾帰り孫に傘さす秋時雨

58 押しくら饅頭ほどほどにして嫁に来い

59 綾取りの娘（こ）に教へらる冬浅し

60 小春日や出るに出られぬ生配信

◆水明インターネット句会◆　令和六年十一月

61	眠らぬ大都会狼はいづこ
62	冬の月文房具箱を整理して
63	七五三亀とはしゃいであめどうぞ
64	末枯や低く行け行けフリスビー
65	冬うらら目移りするや陶器市
66	手術前ベッドで観ている下弦かな
67	虎落笛寝たきり妻の痰を引く
68	托鉢の笠の雫や片時雨
69	熱き湯に仕事納めの身を沈め
70	肌寒み手の甲さする一歩かな
71	冬ざれや被災の能登の過疎進む
72	髪梳けば木偶に魂入る村芝居
73	一陣の風の憎さよ落葉掃く
74	凩の研ぎ澄ましたる眉月かな
75	冬ばれの陶器の市を杖歩く
76	葉が二枚すがる枯木にモンスーン
77	雨雫抱きこぼるる萩の花
78	隅田川暮色へ染まる都鳥
79	霜柱踏むやアトランティスのごと
80	いかがかと三冬がそつと根深汁

◆水明インターネット句会◆　令和六年十一月

81 朝顔のまだ咲く坂を駆ける足

82 短日の籬の陰やししおどし

83 戻り来よ彼の日の紅葉かの言葉

84 路線バス柿豊作や茜さす

85 神妙な顔も刹那の着袴の儀

86 子の悩み聞く湯豆腐の箸止めて

87 大和路にどかっと座る藁ぼっち

88 菊展示老人達の自慢会

89 新米のおむすび母のええ塩梅

90 ねんねこの児よりお釣の二十円

91 粕汁や食はず嫌ひが箸を付け

92 目が合ひて鑑と思ふ穴惑

93 身震ひて寒夜の帰宅星ひとつ

94 三日月や尖る方より鮫齧る

95 まごいねの穂先に留めるひとしずく

96 凩や風の形の古木立つ

97 尼様の箒困らす濡れ落葉

98 鳩鳴いて夕暮れの色深まりぬ

99 蔓荔枝苦味も旨味美味なりて

100 かぎ編みのセーター習ふ昼下がり

◆水明インターネット句会◆　令和六年十一月

101	その赤は命の色か実南天
102	ビーナスも仮面も土偶冬暖か
103	踏み減りし磴の窪みの木の実かな
104	歩き疲るる月光に誘はれて
105	観覧車ライトの紅葉街覆う
106	週末に彼氏来るよと空つ風
107	石鉢や綻ぶ石蕗（つは）の花のもの
108	もつ焼きに柚味噌たつぷり屋台酒
109	奥能登に春待つ調べ駅ピアノ
110	駐在所のフェンス占拠や葛の花
111	諍いを厭はぬ国よ露凍る
112	背を伸ばしゴミ捨てにゆく今朝の冬
113	ふくらはぎに似ている子持柳葉魚かな
114	オリオンよ空狭き街を踏んで行け
115	都落ち四万十懸かる寒の月
116	モノクロの黒澤映画芋かじる
117	秋深し揺りかごと化す終電車
118	失職にさせた議会と知事の冬
119	河豚食うて地獄の赤い水を掻く
120	慎ましく庭影ほのかつ石蕗の花

◆水明インターネット句会◆　令和六年十一月

121 冬めいてまた数減りしクラス会

122 今年なほとどかぬ高さ烏瓜

123 寒さ増し短歌の暗記に努めたり

124 長き旅路終へ独り熱燗注ぐ

125 ねんごろに唱へる祝詞神の留守

126 山茶花や古刹の僧の竹箒